

『NPO法人』って

なんですか？

中央一丁目
地区長 竹中 紀博

土浦市市民活動課市民協働室主催にて二月八日・十五日の二日間NPOセミナーが開催されました。

講師進行役にNPO法人スポーツ健康支援センター職員（代表古徳洋一）により行われました。

ゲスト講師に図書館長とその他に現在土浦市内で活動している二団体のNPO法人の活動状況報告がありました。

・図書館館長入沢弘子さんより広報の重要性の話がありました。

・「NPO法人みんなのたまご」は子ども食堂などの活動報告がありました。

・「NPO法人キドックス」よりは、保護犬を介した青少年の自立支援教育についての活動報告がありました。

セミナー参加者皆様より質問が多く出て、とても活発で興味のあるセミナーでした。

茨城県におけるNPO法人数は平成三十年七月現在八百四十法人、土浦市では四十一法人が認証され

ています。

NPO法人とは特定非営利活動促進法により法人格を認証された民間非営利団体です。法的には「特定非営利活動法人（NPO法人）」と呼ばれています。

「非営利」とは、利益を出さないのではなく、収入から活動経費を差し引いた利益を構成員で分け合わないという意味です。たとえ剰金が発生しても、その金額を次年度の事業推進に投資して使命実現に向けて活動する組織です。

NPOの活動目的は、団体の活動を通じ、社会使命を果たし、社会に対してサービスを提供すること。

法人化することで、ボランティア活動など非営利活動を行う団体が活動しやすいようになることです。そのために、「法人格の取得」「情報の公開」「安定財源の確立」が重要です。

地域の「こまった」を解決するために、NPO法人が設立されていると思います。そこで、土浦市所在地で認証されるNPO法人が多くなりますように、応援していきたいと思えます。

昨年の漢字「災」と

わが町

立田町
地区長 飯田 功

二〇一八年、師走恒例の「今年の漢字」が十二月十二日に発表され、「災」（サイわざわい）に決まりました。この日、午後二時過ぎ京都・清水寺で森清範貫主が縦百五十七センチ、横百三十七センチの越前和紙に広島県産の筆で力強く揮毫（きごう）されました。

「今年の漢字」は、十二月十二日の「漢字の日」に一年を振り返り、漢字に込められた奥深い意義を再認識する機会を持つことを目的に始まり昨年で二十四回目となりました。

また、昨年は北海道胆振東部地震、大阪府北部地震、島根県西部地震、西日本豪雨、台風二十一号、二十四号の直撃、記録的猛暑など自然「災」害の脅威を痛感した一年で災害の経験から全国的に防災意識が高まり、多くの人が自助共助の大切さを痛感した年でした。

わが町においても、台風二十四号により三件の被害を受けました。一件目、町内に設置してあるごみ

集積場が風にあおられて、新川に水没してしまいました。（写真①）
二件目、浄真寺の屋根瓦が数十箇所にわたり剥がれ落ちました。

そして、樹齢何百年の樹木が倒れ児童公園のフェンスを損壊してしまいました。幸い人的被害がなかったので安心しました。（写真②）



写真①



写真②

三件目、わが町と真鍋二丁目にかかる橋の欄干が無残な姿となりました。幸い、その時は橋の架け替え工事のために通行止めになっていたのので人的被害はありませんでした。(写真③)



写真③

なお、一件目の集積場については、町内有志により引上げ元の位置に戻しました。現在も役目を果たしています。二件目の浄真寺については、管理者にお願いして修復作業をしていただきました。三件目の橋については、行政にお願いしているところです。

以上の事を踏まえて、災難ではありましたが早急の対応により回復できました。本当に「災」にあった一年であったと思います。

今年は日本においては皇太子様が、新天皇に即位され元号も改まりますので、わが町においても輝かしい年になります。今年がより一層飛躍の年となりますよう努力致します。

同好会だより
相撲甚句同好会

会長 多田 幸一

「相撲甚句同好会」発足の経緯は大関高安関が土浦一中の出身であり「ここの土浦は地元でもあるので「声援をしよう」という意気です。そして、昨年六月から全五日の日程で一中地区公民館主催、相撲甚句講座「どすこい相撲甚句を唄おう」が開かれ終了後この練習を続けよう、この火を消すのはもったいない！と受講者有志と講師の永須先生のご協力で九月十九日に発足したものです。

◎当会の稽古(練習)日は

- ・毎月 第二、第四、水曜日
- ・場所 一中地区公民館
- ・時間 午前十時～十二時
- ・会費 月千円
- ・講師 永須道夫先生

(土浦相撲甚句会会長)

お腹から声を出して唄う、健康の為にとても良いです。ご興味ある方はぜひ見学に来てください。(写真 前列右から三人目永須講師・前列左端が筆者)



高安関 応援歌をご紹介します。
祝新大関 高安関 応援甚句
作 土浦相撲甚句会 谷会秀次
燃えろ 高安 炎のごとくよ
平成二年に生を受け
霞ヶ浦に育まれ

心やさしき少年は
鳴戸門部屋へと入門す
隆の里をば 親とする
綱の人道説きながら
角界きつての猛稽古

艱難辛苦をばねとして
激闘白星積みかさね
時に平成二十九年

五月の両国国技館

突き押し相撲が さえわたり

見事勝ち得た大関に

庭のさつきも 寿ぐる

輝く九度の三賞と

四つの金星携えて

正々堂々精進は

稀勢の里に続けと人の言う

居並ぶ 難敵打ち破り

めざすは賜杯だ 綱獲りだ

・相撲甚句について

相撲甚句は江戸時代より力士が土俵で余興として披露した事に発する、と云われています。土俵上で拍子木以外に楽器を使わず「ドスコイ ドスコイ」という合の手だけで唄いあげる相撲独特の素朴な唄として、相撲ファンに親しまれ国技大相撲と共に伝えられ、唄いつがれてきた、というものです。



同好会だより

ハートフルハーモニカ

講師 久賀谷 真紀子

公民館講座終了後、同好会として発足し、十六年の月日が経ちました。当時土浦市では、初めてのハーモニカ講座として受講生を募集して、多くの方に受講していただきました。

ハーモニカは、昔なんとなく吹いたことはあるけれど、きちんと吹き方を習って、色々な曲を吹いてみたいという皆さんに、ハーモニカの持ち方や数字譜の読み方、吹く時の口の形など、一つ一つ教えていきました。ハーモニカは、何といつても、手軽に始められ、息を吹いたり、吸ったりするので、腹式呼吸をつかいても健康に良いと言われています。

練習は、土曜日三回、一年に新しい曲を三〜四曲練習しています。

各音楽祭での演奏、施設訪問でのボランティア演奏、お花見演奏などに励まし合い、助け合い楽しみながら、ハーモニカライフを元気の源としてもらえるよう、指導に当たっています。

同好会だより

おもてなし料理同好会

力 眞理子

私が、おもてなし料理と出会ったのは、四十一年以上勤めた仕事を辞めた三ヶ月が過ぎた頃でした。当時は震災の後の節電と言われ、家の外は地盤沈下による騒々しい道路工事の音、エアコンを消した部屋の中は暑く、何十年振りにあせもが出来、興味のありそうな講座を幾つか受けた内の一つです。

平成二十三年六月より受講しました。その後同好会として今日まで続いています。

おもてなし料理と言うとかしこまっている料理とか、きどっている料理とか思われるかもしれませんが、盛り付けをちよつと工夫するとか、いつもの料理に少し手を加えるとかなので、いつも家で作る料理とのちがいを楽しんで作っています。同好会の仲間ほぼ同世代、いや少し若い人もいます。料理の種類は、和・洋・中華全般です。おしゃべりしながら作り、出来上がったら又、おしゃべりしながら食べる。

西岡先生は栄養や季節感、そして食材はほとんど使い切る、以前は良



く「捨てない」って声をかけられました。食材を大切に使い切る、それは食材に対するおもてなし、これが、私が平成二十三年から同好会を続けているのだと思います。料理は誰かとおしく、そして楽しく食べる、これが一番だと思えます。

みんなの広場

ミニバスに入団して

桜町四丁目 小六 竹中 れいら

わたしは、五年生の三学期の終わりの頃にミニバスケットクラブスポーツ少年団に入りました。

入ったぎっかけは、バスケットをやっている同級生にさそわれたからです。最初は断り続けたけど、バスケットをやってみてもいいかなとおもい体験に行きました。みんながいろんな練習をしていて、楽しそうだったので入団することにしました。

入ってよかったことは、他学年や他校にも友達が増えたことです。以前は他の学校の友達がいなくなってきたので仲がいい友達が増えてよかったです。それと、好きなスポーツが増えたことです。

そして、バスケットが前より少し上手になったり、前より長い距離が走れるようになったのがよかったです。

うれしかったことは、背番号が上がったことです。その他にもスポーツ少年団の駅伝大会でミニバスチームが十位になって賞状と小さいトロフィー、メダルをもらったことです。



楽しかったことは、小六最後のユニフォームの試合で、みんなで協力して試合に勝ったことです。

くやしかったことは、カット、リバンド、スクリーンアウト、ルーズボールができなかったり、努力が足りなくて背番号が下がったことです。

だめだった所は、いっぱい走れなかったり、ルーズボール、リバンドがとれなかったり、リバンドをとってもあせって変なところにパスをして相手にボールをとられてしまったことです。

思い出に残ったことは、合宿や遠征で旅館に泊まったことです。楽しい話をして盛り上がり、他の部屋の人も呼んでみんなでプロレスや、まくらなげをしたり、電気を暗くしてかくれんぼをしたりして楽しかったです。

もうすぐ六年生が終わり卒団する



↑ 浅草寺

歴史探訪の旅

1月17日に浅草散策と大相撲観戦を行いました。



1月場所観戦→

一中地区市民委員会の活動紹介

市民委員会とは、町内会（自治会）をはじめ、子ども会育成会、婦人会、PTA、学校、高齢者クラブなど地域住民の皆さんから構成されている組織です。公民館まつりや視察研修会などを企画・実施しています。

しかないのです、残りの時間を集中してバスケットに取り組みたいです。中学生になっても、バスケット部に入ってバスケットを続けて、がんばりたいと思います。ミニバスに入って本当によかったと思います。



福祉部

「傾聴ボランティア」
特別養護老人ホーム 滝の園にて



安全部

「救急救命・AED 講習会」
いざという時のために



スポーツ健康部

「スポーツ体験教室
ノルディックウォーキング」
水郷公園にて

また、市民委員会には6つの専門部が設置されており、各町内から2名程度が専門部の部員として活動に参加しています。

回覧版でイベント参加者を募集するチラシを随時配布しています。多くの皆さんの参加をお待ちしています。



青少年育成部

「チャレンジクラブ」の活動のサポートをしています。リース作りに挑戦



文化広報部

「広報紙「亀城」の編集会議」



環境部

「ポイ捨て看板の設置」
亀城公園周辺に毎年設置しています。

龜俳句会(同好会)

千エ口負ひて男ゆきけり月煌煌

杉野 寵児

またひとつ学ぶことあり冬木の芽

今泉 準一

あめ色に変わりてゆるみ藤の椅子

今泉 晴美

父も子も半ズボンなり動物園

垣内 かをり

予科練生通ひし店の古簾

金岡 景子

表札に犬の名もあり秋うらら

河口 美津子

花祭釈迦は健康優良児

矢口 征子

夕顔や盛り塩高き裏小路

渡辺 ふみ子

短歌

友の庭の白梅一枝届きたり

寒さに耐へし香のゆかしかり

大和町 瀬古澤 和子

はまぐりの貝におさまる立ち雛や

七き君つくりし雛は寄り添う

田中一丁目 井上 寛江

青白き冴えたる月の春の宵

凍えた緑を夜風はつむぐ

生田町 桑田 今日子

だらり坂をのぼりて父母に逢いに行く

遙かに霞浦を望む墓所へと

中央一丁目 櫻井 雅江

水底に熱きところが沈み居り

拾い集める還暦の年

大町 齋藤 順子

編集後記

三月も中旬となり、新天皇が即位されるのも二ヶ月余りとなりました。そして平成の元号から新たな元号に変わるうとしています。

そこで、日本の元号について改めて歴史を探ってみました。「日本書紀」によると、六四五年に「大化」が使用されたのが元号の始まりで、日本の歴史や文化と深い関わりがあり、例えば「大化の改新」「建武の新政」「明治維新」といった歴史的事業の名称にも使われてきました。

明治以降は一世二元の制となり、新しい天皇が即位するときに改元されるようになったようです。

新たな元号がどのようになるのか楽しみでもあります。

さて、今号も大勢の皆さまに寄稿を頂きまして、編集委員一同心より感謝申し上げます。

(本号の編集担当者)

- 新井 幸男 / 田中久美子
- 岡部 恒文 / 進士 武之
- 小野村一博 / 梅木 逸夫
- 加藤 節子 / 石川 幸子
- 山本 敦子